

都道府県・指定都市番号	9	都道府県・指定都市名	栃木県	研究課題番号・校種名	2 小学校
				教科名	社会科
研究課題	<p><b>学習指導要領の趣旨を実現するための学習・指導方法及び評価方法の工夫改善に関する実践研究</b></p> <p>小学校社会科において、よりよい社会の形成に参画する資質・能力の基礎を培うために、「社会的な見方・考え方」を働かせながら深い学びにつなげる教材の開発、学習内容の構造化、主体的・対話的で深い学びを通じた追究のプロセスや学習評価、学習活動の工夫について研究を行う。</p>				
学校名 (児童数)	宇都宮市立横川東小学校 (913 人)				
所在地 (電話番号)	〒321-0923 栃木県宇都宮市下栗町 963 番地 (028-656-1031)				
研究内容等掲載ウェブサイト URL	<a href="http://www.ueis.ed.jp/school/yokokawa-e/">http://www.ueis.ed.jp/school/yokokawa-e/</a>				
研究のキーワード	・社会的な見方・考え方 ・教材の開発 ・問い ・学習評価 ・社会参画				
研究結果のポイント	<ul style="list-style-type: none"> <li>○「社会的な見方・考え方」を働かせるための問いと資料の工夫</li> <li>○社会に見られる課題について選択・判断を迫る教材の開発</li> <li>○主体的な学びにつながる学習問題や「問い」の構成</li> <li>○「見通す・振り返る」活動の習慣化</li> <li>○互いの考えを広げ深める学習形態の工夫</li> <li>○実社会に生きる人々との対話を通じた社会の仕組みや課題の理解</li> <li>○板書や掲示物、ワークシート、ノート等の協働的な学びにつながるツールの活用</li> </ul>				

**1 研究主題等**

**(1) 研究主題**

「自ら社会に関わり、他者と協働しながら豊かな未来を創造しようとする子どもの育成」  
 ～主体的・対話的で深い学びを通して、思考力・判断力・表現力を育み、  
 よりよい社会の形成に参画する資質・能力の基礎を養う社会科学習～

**(2) 研究主題設定の理由**

①現代社会の情勢や新学習指導要領改訂の趣旨から

「知識基盤社会」や「情報化・グローバル化する社会」においては、必要な情報を自ら収集し、他者と協働して多角的に考察し、意思決定や行動選択を繰り返して、これからのよりよい社会づくりに積極的に関わっていく資質・能力を養っていくことが必要である。

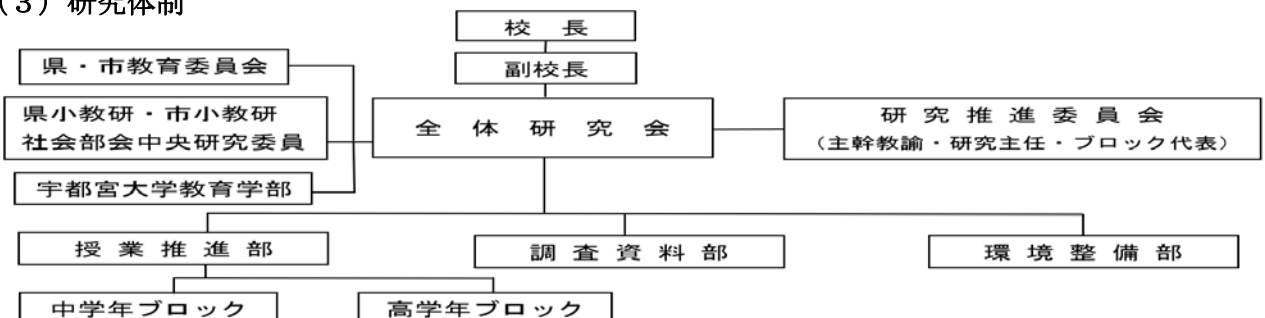
②児童の実態から

課題に対して真面目に調べたり、友達と協力して作業したりする様子が見受けられるが、自分の考えについて根拠を示して明確に表現したり、話し合う中で深めたりすることに課題がある。

③栃小社研の研究主題から

栃木県小学校社会科教育研究会（栃小社研）では、平成 31 年度に行われる関東地区小学校社会科研究協議会研究大会栃木大会に向けて、研究主題を「社会的事象の意味や特色を追究し、進んで社会に関わろうとする子どもを育てる社会科学習」とし、研究を進めている。

**(3) 研究体制**



#### (4) 1年目の主な取組

平成 29 年度	5月	・校内研修「本年度の研究主題について」研究主任
	6月	・校内研修「栃小社研研究内容についての説明」栃小社研研修部長 川口 英利先生 ・校内授業研究会（要請訪問）6年「今につながる室町文化」 指導助言者 宇都宮市教育委員会 副主幹・指導主事 小栗 英樹先生
	7月	・教育課程研究指定校研究授業 4年「そのごみはどこへいくの」 講師 文部科学省初等中等教育局視学官 澤井 陽介先生 ・校内研修 校内における社会科研究の進め方についての話し合い
	8月	・宇小社研合同研修会 11月の要請訪問に向けての指導案検討会
	10月	・校内研修 11月の要請訪問に向けての指導案検討会 ・先進校視察（全小社研奈良大会）
	11月	・校内授業研究会（要請訪問）3年「ものを売る仕事ではたらく人たち」 5年「これからの工業生産とわたしたち」 指導助言者 宇都宮市教育委員会 副主幹・指導主事 小栗 英樹先生
	12月	・校内研修 社会科に関する講話 宇都宮大学教育学部准教授 熊田 禎介先生
	1月	・校内研修 社会科に関する講話 宇都宮大学教育学部教授 溜池 善裕先生
	2月	・校内研修 次年度の学校課題・研修計画について

## 2 研究内容及び具体的な研究活動

### (1) 研究内容

#### ①「社会的な見方・考え方」を働かせながら深い学びにつなげる教材の開発

社会的な事象の意味や特色に迫るための教材の研究・開発を行う。そのために、教師自身が教材化の視点を持って社会的な事象を子どもにも具体的に見えるようにしたり、「社会的な見方・考え方」を働かせるための「問い」と資料を工夫したりする。また、社会に見られる課題に選択・判断を迫る教材の研究・開発を行い、課題と自分たちの生活との関連を把握できるようにする。

#### ②主体的な学びにつなげる追究のプロセスと学習評価の工夫

主体的で深い学びにつなげる「問い」の構成を工夫する。子供の主体的な問題解決学習につなげるために「問い」と「答え（まとめ）」をセットで考え、「学習内容構造図」を作成して「問い」を構造的に位置付ける。また、単元のプロセス（学習過程）を見通し、三つの資質・能力の育成に準拠した観点に従って適切な場面で評価を行う（マネジメント）。さらに、「見通す・振り返る」活動を重視し、「振り返り」における評価方法について工夫を行う。

#### ③対話的な学びにつながる学習活動の工夫

対話的な学びにつなげるため、実社会に生きる人々の話を聞いたり、人々が連携・協働して社会に見られる課題を解決している姿を調べたりする学習活動を取り入れる。また、友達同士互いの考えを広げ深める話し合い活動を充実させるため、個人の学習を充実させ話し合いに臨むこと、「考え言葉」の活用、板書やワークシート、ノート等協働的な学びのツールの工夫、学習形態の工夫を行う。

### (2) 具体的な研究活動

#### ①「社会的な見方・考え方」を働かせながら深い学びにつなげる教材の開発

社会的な事象の意味や特色に迫るとともに、社会に見られる課題に選択・判断を迫るために、「社会的な見方・考え方」を働かせるための視点と資料の整理を行い、授業実践に生かした。

3年生では、「販売に携わる人々の工夫や努力」を捉えさせるために、買い物調べ、スーパーマーケット見学を行った。また、スーパーマーケットとそれ以外のお店の工夫を比較することで、それぞれのお店が存在する意義に気付かせた（相互関係）。

「販売に関する仕事」について学習したことを基に、どこにどのようなお店を開くか販売者の視点で考えることで、消費者の願いをもとに販売者が様々な工夫をしていることに気付くことができた。



4年生では、「廃棄物処理のための事業」を捉えさせるために、ごみ集積所の立地（位置や空間）、市のごみの量と人口の移り変わりのグラフ、ごみ処理に関わる年表（時期や時間）、パッカー車や清掃作業員の話、廃棄物処理に関わる市の計画（相互関係）等を扱った。また、社会に見られる課題について選択・判断を迫るために、食品ロス（もったいない生ごみ）問題を扱い、どうしたら減らすことができるか学級全体で話し合った。

5年生では、「工業生産の課題」を捉えさせるために、主な発電所の分布図（位置や空間）、温暖化に関する資料、輸入品目の変遷や割合の資料（時期や時間）、輸出入の相手国の図（位置や空間、相互関係）等を扱った。また、調べて得られた情報を基に、工業を発展させるために自分



できることは何かを考え、話し合いを行った。

6年生では、金閣と銀閣に関わる写真や映像等の資料を効果的に提示し、違いを根拠として時代の変化や様々な事象の関係性を考えた（時期や時間）。また、金閣・銀閣、義満・義政、庶民等の視点を提示し（相互関係）、それぞれのつながりや関わり、更には、現在の文化との関係性について考えていった。

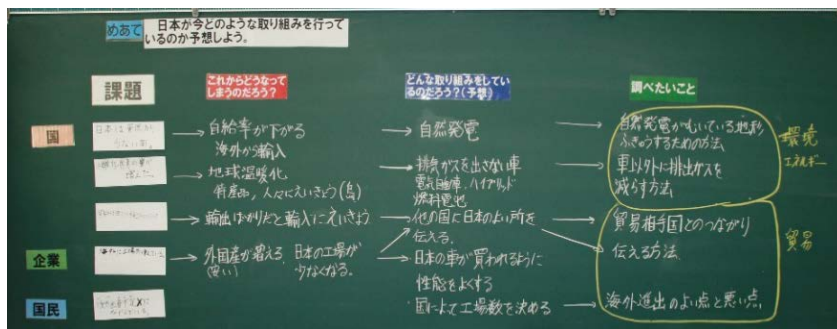
## ②主体的な学びにつなげる追究のプロセスと学習評価の工夫

子供の主体的な問題解決学習につなげるために、「問い」について研究を行った。「学習内容構造図」を作成して「問い」を構造的に位置付けるとともに、追究のプロセスを見通した適切な場面での学習評価について、三つの資質・能力の育成に準拠した観点をもとに行った。

3年生では、「学区には、たくさんスーパーマーケットがあるにも関わらず、なぜコンビニエンスストアや個人商店があるのか」と発問することで、スーパーマーケット以外のお店の工夫を考えることができるようにした。また、お店の工夫をまとめる際に、「販売側は、なぜその工夫をするのか」と発問することで、消費者の願いと工夫を関連させ、消費者の願いに応えられるように販売の工夫をしていることに気付かせた。

4年生では、「どのような場所にごみステーションはあるのだろうか」、「人口は増えているのに、なぜごみの量が減ってきているのだろうか」、「ごみを減らすために市や事業所、市民はどのように協力しているのだろうか」等、社会的な見方・考え方を意識した問いかけを行った。また、ごみ処理に関わる課題について価値判断・意思決定していくために、「ごみを減らすためにどうしたらよいか、話し合ったことを基に書いてみよう」と投げかけ、社会的な事象等に主体的に関わろうとする態度について評価を行った。

5年生では、学習問題づくりを丁寧に行い、学習問題に対する予想をし、学習計画を立てていった。また、輸出品目の変遷や割合、貿易相手国との関係に関する資料から、「輸出品目はどのように変わってきているのだろうか」、「それはなぜだろう」という問いを、輸入額と輸出額の比較から



「輸入と輸出のバランスは今のままでいいのだろうか」という問いを持たせた。振り返りの表現を重視した評価方法については、「これからの日本の工業生産を発展させるために、私たちにできることは何かを考えよう」と投げかけ、思考・判断・表現について評価を行った。

6年生では、金閣と銀閣の違いをきっかけとして、「なぜこのような違いが生まれたのか」という問いから「室町時代はどのように変化したのだろうか」と学習問題を設定し、違いを根拠として主体的に時代の変化や様々な事象の関係性を調べていった。また、金閣・銀閣、義満・義政、庶民等の視点に沿って時代の変化を調べ、全体で話し合い、話し合ったことを基に学習問題に対する答え（まとめ）を「マイ年表」に表現することができた。

### ③対話的な学びにつながる学習活動の工夫

3, 4年生は、実社会に生きる人々との対話を取り入れた学習活動を行った(3年生:スーパーマーケットを見学して店員にインタビュー, 4年生:ごみの集め方について自分の家族にインタビュー, 清掃作業員・宇都宮市環境部ごみ減量課職員のお話)。実社会で働く人との対話を通して, 社会の仕組みや課題について共感的に理解することができた。



どの学年も, お互いの考えを広げ深める話し合い活動の工夫を行った。自分で調べる活動を重視し, 個人の考えをしっかりと持たせた上で話し合うことで, 話し合いに深まりを持たせようとした。個人, ペア, グループ, 全体へと学習形態を工夫して授業を展開することで, 共に学び考えを深め合うことにつながった。



また, グループの形態も同じ内容を調べた児童同士で組ませたり, 逆に異なる視点で調べた児童同士で組ませたりと様々な工夫が見られた。さらに, 「なぜか」というと, 「～なので」のように根拠を明確にしながら意見を述べることや, 友達同士で意見をつなぎながら話し合いを進めるスキルも徐々にではあるが身に付きつつある。構造的な板書やワークシート, ノートの工夫, 座席プリントの活用等, 協働的な学びにつながるツールのさらなる活用を進めていく。

### 3 研究の成果と課題 (○成果●課題)

- 児童に「社会的な見方・考え方」を働かせるために, 「問い」や資料を有効に活用することができ, 教師もその有用性について実感を持てた。
- 社会に見られる課題について選択・判断を迫る教材を開発することで, 課題を自分たちの問題として捉え, 社会との関わりを実感することにつながった。
- 学習問題や「問い」を児童と教師が共有することで, 主体的な学びにつながっていた。
- 「見通す・振り返る」活動の習慣化により, 児童が見通しを持って考えたり今後の生活に生かそうとしたりする姿が見られた。
- 多角的な見方・考え方ができるようになり, 他教科にも応用させることができた。
- 自分の考えや思いをまとめる, 友達に伝える, 友達の意見を取り入れる, ペア・三人組・全体などの学習形態の工夫が見られた。考える言葉, つなげる言葉が徐々に子供たちに広まりつつあり, 友達の意見をよく聞いて活動するようになってきた。
- スーパーの見学をしたり, ゲストティーチャーを招いたりすることで, 実社会に生きる人々の話を聞く機会が増え, 人を通して社会の仕組みや課題を理解することができた。
- 効果的にワークシートを活用することができた。ワークシートと板書・掲示物との連携を図ることができた。
- 「社会的な見方・考え方」を働かせるための教材の研究・開発を更に進めるとともに, どのような「問い」をどのような場面で設定すればよいか, 今後も吟味していく必要がある。
- 選択・判断を迫るために, どのような内容をどのような場面で設定すればよいか, 今後も研究していく必要がある。
- 目指す子供像(資質・能力)とその具体的な評価方法, 評価規準について, 更に明確にしていく必要がある。
- 対話的な学びの実現に向けて, 児童同士でやり取りや単元の目標に迫るような話し合いができるように, 練り合いや深め合いのスキルを高めていく必要がある。

### 4 今後の取組

「社会的な見方・考え方」を働かせながら深い学びにつながる教材の開発や, 主体的な学びにつながる「問い」の構成・学習評価, 対話的な学びにつながる学習活動について, 校内体制を整えながら授業実践を積み重ね, よりよい社会の形成に参画する資質・能力の基礎を, 更に児童に育んでいく。